

目に見えない水

奈良市立一条高等学校附属中学校三年

榎本 彩乃

「節水をしよう」と聞くと、「こまめに蛇口をしめること」と思い浮かぶでしょう。しかし、今日の自分の食べ残しが、一番の水の無駄遣いだとしたらどうでしょうか。「バーチャルウォーター」の存在を知った時、節水に対する概念が覆されました。

バーチャルウォーター、別名仮想水とは、食料や工業製品を輸入する時、その生産に消費された水の量を推定した概念のことです。目には見えず、日々の生活では感じにくい水です。例えば、牛肉一キログラムを作るのに必要な水は約二〇〇〇〇リットルと言われています。二〇〇〇リットルを身近なもので表すと、満タンにしたお風呂の浴槽八十、百杯分になります。飼料となるトウモロコシを育てるのに膨大な水が必要になるので、これだけの水の量になるのです。このことから、少しの食べ残しでもた

くさんの水が無駄になつてしまうことが分かります。

次に視野を広げて、日本とバーチャルウォーターについて調べました。日本にいる限り、水不足に困ることはあまりないかもしれませんが、ですが、これから水不足になる可能性は低くないそうです。現在、水不足を感じないのは大量のバーチャルウォーターを世界各国から輸入しているからです。日本はバーチャルウォーターの輸入で海外とつながっていて、世界で水質汚染が進んでしまうと、私たちの食卓にも影響が出てしまいます。水質汚染は水不足と密接に関係していて、水不足が水質汚染を加速させ、水質汚染が水不足を深刻化させてしまうのです。

このことから、バーチャルウォーターの消費を減らすことが一番の節水になるのではないかと考えました。バーチャルウォーターの消費を減らすためには、食べ残しを減らす、なるべく近い地域で作られた食べ物を選択すること

が有効的だと思いました。私は特に、食べ残しを減らすことから始めたいと思います。自分が食べられる量だけをつくったり、購入することは簡単で、すぐに実行できるからです。

今、「節水をしよう」と言われたら何が思い浮かびますか。「蛇口をこまめにしめること」ももちろん大切です。ですが、あなたにできる「新しい節水」があるはずです。